

平成29年度事業報告書

平成30年3月
一般社団法人データクレイドル

1. 倉敷市受託事業「高梁川インテリジェントICT実装事業2017」

行政と民間が協働して平成28年度に実施した「データで紡ぐ高梁川流域連携事業」の成果物（人材、サービス）を高度化・拡充して、以下の業務を行った。

(1) オープンデータ推進

平成27年度「データで紡ぐ高梁川流域連携事業」で整備し、平成28年度「データで紡ぐ高梁川流域連携事業」で岡山県データカタログとの連携を行ったオープンデータ管理システム「databox」の運用を行い、高梁川流域圏7市3町のオープンデータ推進を支援した。

①国の推奨データセット（ベータ版）対応

内閣官房情報通信技術（IT）総合戦略室が平成29年12月に公開した「推奨データセット」フォーマット標準例データ項目を一定の範囲以上満たす公開データセットを作成し「data eye」でカタログサイト公開した。

②共通語彙基盤の普及・充実

推奨データセット対応を含め、オープンデータの標準化に必要な共通語彙基盤への取り組みを継続して行っており、このたびIMI 情報共有基盤 共通語彙基盤コミュニティ IMI パートナーの認定を受けた。

③コミュニティバスデータの「標準的なバス情報フォーマット」化

公共交通分野におけるオープンデータの整備・登録を推進するため、国土交通省が2017年3月に公開した「標準的なバス情報フォーマット」に従い、高梁川流域圏のコミュニティバス情報をGTFS形式に変換した。

④国際標準のオープンデータ推進

都市の統一比較指標の国際規格であるISO37120で定められた都市指標をオープンデータとして整備し、国内初のISO37120の認証取得を目指す取組を支援した。

(2) データ分析・可視化

平成27年度の「データで紡ぐ高梁川流域連携事業」で整備し、平成28年度の「データで紡ぐ高梁川流域連携事業」でIoT/ビッグデータ分析基盤（データ統合・分析共通PaaS）の拡充を行った高梁川流域データポータル「dataeye」および「dataeye」で掲載する地域特性

分析コンテンツのウェブサイト運用を行い、データビジュアライズの有効性を地域内外に紹介した。今年度拡充した主なコンテンツは以下の通り。

①Citygraphy 倉敷市の姿

人口、世帯、経済、地理・気候、保健・福祉・教育、観光等の統計データをインフォグラフィック化した。

②倉敷美観地区人流 NOW

倉敷市美観地区に設置したビデオセンサ（人流・車流）、IoT センサから取得したリアルタイムデータをリアルタイムに可視化するコンテンツを制作した。また、通行人の性別年代推定、通行車両の車種判定、気象情報などとの重ね合わせ分析を行った。

③Wi-Fi アクセスログ分析

倉敷駅から美観地区のフリーWi-Fi アクセス状況の可視化コンテンツを制作した。

(3) AI 応答型アプリケーション

平成 28 年度「高梁川流域インテリジェント I C T 実装事業」で整備した AI 応答型アプリケーション「Tabit」およびロボット（3 台）を継続提供するとともに、雑談機能、FAQ 機能、コモンセンス、NG ワード・誤変換対応機能などを追加し会話機能強化などの機能拡充を行った。

(4) 人材育成・テレワーク

①データ分析サロン

平成 27 年度の「データで紡ぐ高梁川流域連携事業」で整備したデータ分析サロン運営を行い、データ活用の普及啓もうを行った。

運営時間	平日 10 時～17 時（スタッフ常駐）
場 所	倉敷市阿知 1 丁目 7-2 くらしきシティプラザ西ビル 706 号
対象者	サロン会員（圏域自治体・企業・団体・学生等）
設 備	パソコン（インターネット接続可）、プリンタ、プロジェクタ ミーティングスペース（8 名程度）／作業スペース（6 名程度）
ツール	オープンデータ登録・管理システム (databox) オープンデータポータルサイト (dataeye) Tableau、R（R Studio 含む）、E2D3、GIS（ArcGIS 相当）

②データ活用技術に係るオンライン講座

平成 28 年度「テレワークで紡ぐデータキャピタル事業」で作成した「テレワーカーのためのデータ活用・分析講座」等の人材育成コンテンツをオンライン講座で提供し、市民データサイエンティストの育成を行った。

③テレワーク推進

「テレワーカーのためのデータ活用・分析講座」等の人材育成コンテンツを活用して継続的にテレワーカー募集・育成を行った。対象者は、従来の子育てや介護等で離職された方や学生に加え、就労支援事業所登録者などに拡大した。

また、テレワーク説明会「働き方カフェ～インターネットを使った新しいはたらき方講座」を開催して、テレワークの推進を行った。

④セミナー・イベント開催

インテリジェント ICT の社会実装に向けたさらなるデータ利活用を行うため、以下のイベント・セミナーを開催した。

- ・データ利活用セミナー ～ビジネスにデータ視点を～
- ・データサイエンスセミナー ～R コマンドで学ぶ統計学～
- ・I ODD2017～オープンデータ×日本遺産・一輪の綿花から始まる倉敷物語

2. 独自事業

平成28年度データ収集・分析事業の成果の高度化を図り、域外に対する収益ビジネス化の加速化を図るため、以下の業務を行った。

- (1) 内閣府「データカタログサイトにおけるメタデータの登録作業簡素化に係る調査研究」への参加
- (2) 平成29年度備中県民局協働提案事業活動「ウィキペディアタウン@備中路」
- (3) 平成29年度 総務省「StartupXAct」へのチャレンジ
研究内容 商店街のにぎわい促進策の検討に有効な通行量調査を実施し、通行量調査ツール「人流モニタリング」システムの確立を目指した。
- (4) その他独自事業
社内データサイエンティスト育成プログラムを開発し、組織内にデータ視点を持つ人材の育成を推進した。

以上

一般社団法人データクレイドル 第3期決算報告書

自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日

○ 貸借対照表 (平成30年3月31日現在) (単位:円)

資産の部		負債の部	
【流動資産】	99,020,105	【流動負債】	97,147,557
現金及び預金	5,135,719	短期借入金	41,600,000
売掛金	88,855,000	未払金	46,679,284
立替金	147,041	預り金	696,850
未収入金	112,550	仮受金	0
仮払消費税等	4,769,795	仮受消費税等	8,171,423
【固定資産】	100,000	負債合計	97,147,557
(投資その他の資産)	100,000		
敷金	100,000	純資産の部	
保証金	0	【純資産】	2,679,466
【繰延資産】	706,918	(基本財産)	1,000,000
創立費	667,995	純資産	1,000,000
開業費	38,923	(利益剰余金)	1,679,466
		[その他利益剰余金]	1,493,316
		繰越利益剰余金	1,493,316
		当期純利益	186,150
		純資産合計	2,679,466
資産合計	99,827,023	負債純資産合計	99,827,023

○ 損益計算書

(自平成29年4月1日 至平成30年3月31日)

(単位：円)

【売上高】		
經常収益	102,111,539	
役務収益	10,000	
經常収益計		102,121,539
売上総利益		102,121,539
【經常経費】		101,822,111
經常利益		299,428
【經常外収益】		
受取利息	41,758	
受取配当金	239	
雑収入	67,298	
經常外収益計		109,295
【經常外費用】		
支払利息	222,573	
經常外費用計		222,573
經常利益		186,150
税引前当期純利益		186,150
当期純利益		186,150

以上